

政治学科カリキュラム・マップ【2021年度】

学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(法学)」を授与する。

[政治学科]

1. 基礎科目として開講される教養科目の履修により、政治学ないし社会科学の領域を超えた教養と学識を獲得した学生
2. 専門教育科目の必修科目および選択必修科目ならびに選択科目を履修することにより、政治学に係る専門知識を獲得した学生
3. 口頭報告ないしレポート・論文等によって、研究結果を取りまとめ報告することができる学生
4. 演習・ワークショップ等の場において積極的に討論するなど、コミュニケーションをはかることができる学生

[凡例]

- ◎=当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを特に強く推奨する科目
- =当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することを強く推奨する科目
- △=当該DPの示す学習成果を達成するために、履修することが望ましい科目
- 無=当該DPの示す学習成果を達成するために、余裕があれば履修することが望ましい科目

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
必修科目	政治学入門 I	BSP100AC	1~4	この科目は政治学科において様々な政治学分野の科目を学習するための土台となる概念及び歴史、制度の知識に関して解説し、政治学という学問に関する全体的なイメージを形成することを目的とする。	高校までの政治経済や世界史の知識をもとに、現代民主主義国における政治の動きを理解できるようになること。民主主義の歴史の中で、これまでの人類がどのような苦労と闘いを重ねてきたか、敬意をもって共感する。市民として政治に参加する際にどのようなことに注意すべきか、理解する。	◎	◎	◎	◎
	政治学入門 II	BSP100AC	1~4	戦後日本の政治を、とりわけ「55年体制」の成立と崩壊について、田中角栄という政治家の軌跡を通じて学び、今日の日本政治を理解するために必要な基本知識を学ぶ。	戦後日本政治の特徴と変化について理解する。	◎	◎	◎	◎
学科基礎科目群	憲法と政治 I	POL100AC	1~4	この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と基本原則について概観する。	①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。 ②日本国憲法の成立経緯について理解する。 ③日本国憲法の構造について理解する。 ④日本国憲法の基本原理・基本原則について理解する。	○	◎	○	○
	憲法と政治 II	POL100AC	1~4	この授業では、日本国憲法が定める各種の人権と国家機構の概要について学ぶ。その際、憲法が定める人権と現実の人権状況との乖離、あるいは憲法が定める国家運営の在り方と現実の政治との乖離を考察することによって、憲法と政治の間の落差と緊張関係について考察する。	①日本国憲法が定める各種の人権の内容と現実の保障状況について理解する。 ②日本国憲法が定める国家機構の原理と構造について理解する。 ③日本国憲法が定める国家運営の在り方と現実政治とのギャップについて理解する。	○	◎	○	○
	近現代の世界の政治 I	POL100AC	1~4	近現代の歴史について学ぶことによって専門科目を学習する際に必要な知識を習得し、同時に政治学の基本的な概念を歴史を通じて理解することを目的とする。第一次世界大戦までの時代を扱う。	大学の授業を理解するのに必要な近現代の歴史について知る。政治学の概念を用いて歴史を理解することで、政治学的な見方を身につける。	◎	◎	○	○
	近現代の世界の政治 II	POL100AC	1~4	近現代の歴史について学ぶことによって専門科目を学習する際に必要な知識を習得し、同時に政治学の基本的な概念を歴史を通じて理解することを目的とする。第一次世界大戦以後の時代を扱う。	大学の授業を理解するのに必要な近現代の歴史について知る。政治学の概念を用いて歴史を理解することで、政治学的な見方を身につける。	◎	◎	○	○
	日本政治史 I	POL100AC	1~4	本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。	近現代日本政治の制度(しくみ)と過程(ながれ)を理解する。そのさい、日沖(琉)関係の視座(中村 哲)、天皇制国家の支配原理(藤田省三)、官治集権と自治分権の対立軸(松下圭一)など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？	◎	◎	○	○
	日本政治史 II	POL100AC	1~4	本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。	近現代日本政治の制度(しくみ)と過程(ながれ)を理解する。そのさい、日沖(琉)関係の視座(中村 哲)、天皇制国家の支配原理(藤田省三)、官治集権と自治分権の対立軸(松下圭一)など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？	◎	◎	○	○
	政治理論 I	POL100AC	1~4	政治学基本科目群に属する科目である。政治的な議論に用いられるさまざまな概念について、それぞれの意味の広がりを知ることにより、政治的な議論を裏取りし、多面的に理解することができる。この講義では、民主主義、自由、正義という、近代政治学において最も重要な三つの概念をめぐって、その歴史的な背景や理論的な対立軸などについて習得する。(なお、政治理論Iと政治理論IIは連続的なので、政治理論Iを先に受講することが望ましい。)	この授業では、政治について考える際に必要な概念、たとえば民主主義、自由、権力などについて、その理論的な基礎を学ぶ。講義を通じて、それぞれの理論の歴史的背景や哲学的な背景にかなう知識を深め、政治を見る視点を養うものとする。	◎	◎	○	○
	政治理論 II	POL100AC	1~4	政治学基本科目群に属する科目である。政治的な議論に用いられるさまざまな概念について、それぞれの意味の広がりを知ることにより、政治的な議論を裏取りし、多面的に理解することができる。この講義では、正義、公共性、権力という、近代政治学において最も重要な三つの概念をめぐって、その歴史的な背景や理論的な対立軸などについて習得する。(なお、政治理論Iと政治理論IIは連続的なので、政治理論Iを先に受講することが望ましい。)	この授業では、政治について考える際に必要な概念、たとえば民主主義、自由、権力などについて、その理論的な基礎を学ぶ。講義を通じて、それぞれの理論の歴史的背景や哲学的な背景にかなう知識を深め、政治を見る視点を養うものとする。	◎	◎	○	○
	政治過程論 I	POL100AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	政治過程論 II	POL100AC	1~4	—	—	—	—	—	—

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
政治学基本 科目群	行政学	POL100AC	1~4	この講義は政策行政系の科目であり、政治学部の政治学基本科目群に属する。現代日本の行政と官僚制の役割と活動の様々な特徴について解説する。学生が行政との相互作用をするための基礎的な知識を学習する。	行政や官僚制あるいは行政職員の行動について、そのような現象として現れることを理解するとともに、そのような行政と対面したときに、どのように対処するかを考える能力を開発するための基礎体力を身につける。	○	◎	○	○
	比較政治論 I	POL200AC	1~4	本講義では、近代政治の基本的分析枠組(国民国家、民主主義、資本主義)を設定し、欧米日本における近代政治の形成・発展を比較検討する。	現代政治の諸問題を、歴史的空間的比較の視座(比較歴史制度発展論)から、理論的に理解する。	○	◎	○	○
	比較政治論 II	POL200AC	1~4	20世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治変化について、欧米日を中心に検討する。なお比較の方法、基準については、比較政治論Iで紹介するので、できるだけ履修のうえで本講義を受講すること。	本講義では、20世紀国民国家パラダイムともいべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。	○	◎	○	○
	経済原論 I	ECN100AC	1~4	経済原論は、経済の根本原理を説明することを目的とする科目であり、「政治学基本科目群」の分野に属する。個々の企業の生産活動と家計の消費行動の法則を明らかにするのが、ミクロ経済学である。ミクロ経済の基本的なフレームワークを学んだうえで企業と消費者の行動メカニズムを考察する。そして1990年にバブルが崩壊しその後巨額の財政赤字を解消できず、デフレから脱却できない理由を学ぶことができる。従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。	この授業では、政治と経済は表裏一体であることを理解し、経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを理解し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。その上でどうすればいいかを考える力を取得することが到達目標である。また、この授業のテーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。	○	◎	○	○
経済原論 II	ECN100AC	1~4	経済原論は、経済の根本原理を説明することを目的とする科目であり、「政治学基本科目群」に属する。個々の企業の生産量や家計の消費量などの集計量がどのように決まるのか、その法則を明らかにするのが、マクロ経済学である。その基本的なフレームワークを学んだうえで資本主義の生成とそのメカニズムを考察する。そして21世紀になって世界的に広がった格差や不平等問題について考察する。従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。	この授業では、政治と経済は表裏一体であることを理解し、経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを考察し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。その上でどうすればいいかを考える力を取得することが到達目標である。また、テーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。	○	◎	○	○	
現代政治 科目群	比較福祉国家 I	POL200AC	1~4	<この授業は、現代政治科目群に属する科目である。>福祉国家の概念は国際的に多様である。では、福祉国家はどのように多様であり、また、何がその多様性を生み出しているのだろうか。「福祉国家 I」では、これらの点を説明しようと提示されてきた理論・視点を、データ分析の実習的な要素も取り入れて学習する。さらに、福祉国家の今日的状況について、「福祉国家と経済のグローバル化」という観点から考察する。	① 福祉国家の国際的な多様性を説明する代表的な理論について説明できる。 ② 福祉国家・福祉レジームの類型を、その分析枠組みと合わせて説明できる。 ③ 用意されたデータを使って、上記の分析枠組みを用いた考察ができる。 ④ 福祉国家に対する経済的グローバル化の影響について説明できる。	○	○	○	○
	比較福祉国家 II	POL200AC	1~4	<この授業は、現代政治科目群に属する科目である。>20世紀の第3四半期までに福祉国家を形成した諸国では、1980・90年代以降の福祉国家再編の過程を経て、「新しい福祉国家」が「新しい福祉国家の政治」とともに姿を現しつつあるとされる。では、それらは具体的にはどのようなものなのだろうか？本授業ではこの問いを、社会政策・福祉政策学の本分野で提示されてきた理論や視点を、諸国の社会保障分野における制度、政策に当てはめて考察することを通して考察する。	① 福祉多元主義の観点から諸国の福祉制度、政策を比較・考察できる。 ② 政府間財政関係の観点から、社会支出に関する財政統計を分析できる。 ③ 福祉三角形のモデルを応用して、福祉国家再編の政治を分析できる。 ④ 福祉ガバナンスの視点を諸国の福祉制度、政策に当てはめて考察できる。 ⑤ 諸国の年金改革を、高齢期所得保障政策の観点から国際比較できる。	○	○	○	○
	政治体制論 I	POL100AC	1~4	政治学教科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。	政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手がかりを見出したい。	○	○	○	○
	政治体制論 II	POL100AC	1~4	政治学教科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。	政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手がかりを見出したい。	○	○	○	○
	ジェンダー論 I	POL200AC	1~4	この授業は、政治学教科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の概念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過してきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。	授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能なのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。	○	◎	○	○
	ジェンダー論 II	POL200AC	1~4	この授業は、政治学教科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。	・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようにする。 ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。	◎	◎	○	○

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
選択必修科目	中東の政治と社会 I	POL100AC	1~4	第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の専門的知識を習得することを目標とする。	学生は以下のことが可能になります。中東地域の政治、経済、歴史、宗教に関する知識の習得。中東地域と他の地域の関係についての理解。国際政治学や比較政治に関する知識の習得。	◎	◎	○	○
	中東の政治と社会 II	POL100AC	1~4	第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の専門的知識を習得することを目標とする。	学生は以下のことが可能になります。中東地域の政治、経済、歴史、宗教に関する知識の習得。中東地域と他の地域の関係についての理解。国際政治学や比較政治に関する知識の習得。	◎	◎	○	○
	台湾の政治と社会 I	POL100AC	1~4	1945年から現在に至るまで台湾は「中華民国政府」の実効支配下にある。1950年代から80年代に至るまでその統治は「権威主義体制」(リンス)であった。この台湾における権威主義体制の在り方を解き明かすことを目指す。	台湾という政治社会の在り方を、「権威主義体制」という角度から明らかにする。同時に世界各地に存在した、また存在する「権威主義体制」を理解していく足掛かりを見出す。	○	◎	○	○
	台湾の政治と社会 II	POL100AC	1~4	台湾における「権威主義体制」が1980年代から90年代にかけて「民主化」していく過程を明らかにする。そして、「ポリアーキー」としての民主主義が定着していく過程も射程にいれる。	台湾における民主化過程を明らかにするとともに、世界各地における民主化とその定着の過程を明らかにする足掛かりとする。	○	◎	○	○
	北アメリカの政治と社会 I	POL100AC	1~4	アメリカの政治や社会について理解することが目的です。アメリカ社会を構成する一般の人びとの行動や思考の背後にある理念・慣習・伝統などを考察し、集団と個人とがどのような関係をもってアメリカ社会を形成しているのかを明らかにします。	本年度は、アメリカ合衆国について、前半は、アメリカの各地域(セクション)の特徴について紹介し、後半では、多民族社会の実態とその統合という観点から考察します。「アメリカとは何か」という問いを考えるうえで必要になると思われる「補助線」を習得することをめざします。	○	◎	○	○
	北アメリカの政治と社会 II	POL100AC	1~4	アメリカの政治や社会について理解することが目的です。アメリカ社会を構成する一般の人びとの行動や思考の背後にある理念・慣習・伝統などを考察し、集団と個人とがどのような関係をもってアメリカ社会を形成しているのかを明らかにします。	本年度は、アメリカ合衆国について、前半は、アメリカの各地域(セクション)の特徴について紹介し、後半では、多民族社会の実態とその統合という観点から考察します。「アメリカとは何か」という問いを考えるうえで必要になると思われる「補助線」を習得することをめざします。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ政治思想史 I	POL200AC	1~4	この「ヨーロッパ政治思想史 I」は、政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。	「ヨーロッパ政治思想史 I」は、おもに、ヨーロッパの古代・中世の政治思想史を扱います。現代の政治学の用語・概念のほとんどが、すでに古代ギリシア・ローマに登場していることから明らかにならぬように、古代の政治思想は、近現代の政治学にもきわめて大きな影響を及ぼしており、後者を理解するためにも非常に重要です。	○	◎	○	○
	ヨーロッパ政治思想史 II	POL200AC	1~4	この「ヨーロッパ政治思想史 II」は、政治学・政治思想の歴史を学ぶことを通じて、政治や政治学について理解を深めることが目的です。	「ヨーロッパ政治思想史 II」は、おもにヨーロッパにおける初期近代の政治思想史を扱います。とくに、宗教改革後の凄惨な宗教対立が、ヨーロッパの政治思想・政治学にきわめて大きな影響を及ぼした点について適切に理解することが、この授業の目標となります。	○	◎	○	○
	アメリカ政治史 I	POL200AC	1~4	本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の歴史と政治を考察します。アメリカ合衆国を通史的にはなく文脈的に考察していきます。	アメリカ合衆国の政治・経済・社会・文化は、日本と密接な関係を持ち、また、日本に影響を与えていますが、一般に思われているほどそれらの理解は簡単ではありません。アメリカという国のもつさまざまな政治的・社会的・文化的特質を考察しながら、それらについて理解を深めます。	○	○	○	○
	アメリカ政治史 II	POL200AC	1~4	本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の歴史と政治を考察します。アメリカ合衆国を通史的にはなく文脈的に考察していきます。	アメリカ合衆国の政治・経済・社会・文化は、日本と密接な関係を持ち、また、日本に影響を与えていますが、一般に思われているほどそれらの理解は簡単ではありません。アメリカという国のもつさまざまな政治的・社会的・文化的特質を考察しながら、それらについて理解を深めます。	○	○	○	○
	ロシア政治史 I	POL200AC	1~4	「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 I」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。	(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。	△	○	○	○
	ロシア政治史 II	POL200AC	1~4	「ロシア政治史」では主に20世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 II」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。	(1)ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2)政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。	△	○	○	○
展開科目	歴史・思想科目群	POL200AC	1~4	この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである(したがってミクロな歴史過程を講じるものではない)。政治の世界は、個人の創発的行動と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。学生はこの授業を通じて、特定の国(たとえば日本)の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。	・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する ・ヨーロッパの政治発展を題材としてまとめられた比較政治学上の鍵概念を理解する	○	○	○	○

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	ヨーロッパ政治史 II	POL200AC	1~4	この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである(したがってミクロな歴史過程を講じるものではない)。政治の世界は、個人の創発的行動と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。学生はこの授業を通じて、特定の国(たとえば日本)の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。	・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する ・ヨーロッパの政治発展を題材としてまとめられた比較政治学上の鍵概念を理解する	○	○	○	○
	日本政治思想史 I	POL100AC	1~4	「日本政治思想史I」:政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。	現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新(明治革命)がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。	○	◎	○	○
	日本政治思想史 II	POL100AC	1~4	「日本政治思想史II」:政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。	「日本」とはいつい何ででしょうか。それはいついかなるものであったのでしょうか。あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している(ように見える)人々をとりあげ、彼ら(残念ながらすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思えます)が提示する様々な「日本」像について考えていきたいと思えます。	○	◎	○	○
専門科目	自治体論	POL200AC	1~4	本講は「政策・都市・行政」の分野に含まれる内容に重点を置く。こんにちの「都市型社会」の特性を理解し、こんにちの公共政策のありかたと理念を理論的にとらえつつ、自治とその機構である自治体について学ぶ。これを通じて、社会を構造的にとらえ、地域課題や公共課題を自治の目線から考える視点を養う。なお、本講の履修後(できれば続けて)秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。	都市型社会の構造、近代化と政策類型の歴史的展開を知る。「自ずから治める」自治をデモクラシー理論から理解する。その機構としての自治体は日本でどのように成立してきたかを理解する。都市型社会における自治とその主体のありかた、自治体との関係を理解し、制度と機能、現状と課題を理解する。地域課題や公共課題を自治の視点からとらえ、政策を考察するための基礎的な知識と能力を得る。	○	◎	○	○
	自治体政策論	POL200AC	1~4	本講は「自治体論」と同様に「政策・都市・行政」の分野に含まれる内容に重点を置く。「自治体論」で学んだ内容に加え、都市型社会における政策過程とその主体を理解し、「政府としての自治体」の成立を確認しながら、自治体(政策・制度)の構造、特徴、展開を事例とともに理解する。なお、本講義の履修前(できれば直前の)春学期に開講する「自治体論」を履修することが望ましい。両講義は1対である。	自治の機構としての自治体とその政策の構造、特徴、展開を理解する。自治と自治体における政策課題の広がり・深まりを歴史的にとらえ、政策主体の多様化と政策手法の開発を、実践と理論を架橋しながらとらえる。これらを通じて、地域課題を自治の視点からとらえ、政策を構想する基礎的な知識と能力を得る。	○	◎	○	○
	都市政策	POL200AC	1~4	政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。	1)都市空間の形成を制御するシステム(制度、プロセス等)を理解できること 2)都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること	△	◎	○	○
	まちづくり論	POL200AC	1~4	政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。	1)地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること 2)現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること 3)都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること	△	◎	○	○
	コミュニティ政策(日本)	POL200AC	1~4	政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策(日本)」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となってきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論 I」を改称したものです。	コミュニティ、自治体内分権(都市内分権)、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。	○	○	○	○
	行政・地方自治科目群								

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	コミュニティ政策(理論・国際比較)	POL200AC	1~4	政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策(理論・国際比較)」では、諸外国(特にドイツ)との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思えます。 なお、本講義は、昨年度までの「コミュニティ論II」を改称したものです。	日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一面面を考察することができるようになること。 具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。	○	○	○	○
	政治学入門演習	BSP100AC	1	この授業は、政治学科の専門科目を学ぶための入門科目として位置づけられます。政治学(あるいは社会科学)の基礎的な文献を読んで、大意をつかみ取り、そのなかで気づいた論点や疑問点を議論し、さらに文献の要約や論点・疑問点についてレジュメやレポートを書くといったことから構成されています。	政治学科の1年生を対象に、読む、書く、発言する、議論を理解する等の大学生としての基本的な能力を身に付けること、さらに読みやすい文献に接しながら政治学とはどのような学問なのか、その具体的なイメージを持つことを目標にしています。	◎	◎	◎	◎
	現代政治特講 I	POL300AC	1~4	-	-	-	-	-	-
	現代政治特講 II	POL300AC	1~4	-	-	-	-	-	-
	国際政治特講 I	POL300AC	1~4	-	-	-	-	-	-
	国際政治特講 II	POL300AC	1~4	-	-	-	-	-	-
	政治学特殊講義 I (概説イタリア政治-歴史と思想)	POL300AC	2~4	-	-	-	-	-	-
	政治学特殊講義 II (概説イタリア政治-歴史と思想)	POL300AC	2~4	-	-	-	-	-	-
	政治学特殊講義 I (日韓比較政治思想)	POL300AC	2~4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。 近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。	一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。 社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。	△	○	○	○
	政治学特殊講義 II (日韓比較政治思想)	POL300AC	2~4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。 近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。	一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。 社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。	△	○	○	○
	政治学特殊講義 I (安全保障政策)	POL300AC	2~4	日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシベリアンコントロール(文民統制)の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。	日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。	△	○	○	○
	政治学特殊講義 I (現代の政治理論)	POL300AC	2~4	政治理論は危機の時代に生まれ、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に對峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論が果たして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。	1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。 2 今日政治的諸課題について理解する。 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。	△	◎	○	○
	政治学特殊講義 II (現代の政治理論)	POL300AC	2~4	政治理論は危機の時代に生まれ、と言われる。危機に立ち向かいその解決を目指す点で、政治学は古来より医学に喩えられてきた。本授業では、二度の世界大戦、大衆社会化に伴う人間の画一化、マイノリティの排除や差別、テロとの戦い、ポピュリズム…等々の危機に對峙してきた、現代の代表的な政治理論を概観しながら、今日の政治がなお抱えている諸課題に関して、批判的考察を行なう。とくに問うべきは、それらの政治理論が果たして問題を解決できているのかどうか、もしできていないとしたら、それは何を意味しているのか、である。	1 現代の政治理論の主要な争点を理解する。 2 今日政治的諸課題について理解する。 3 現在および将来の政治的諸課題に対する批判的考察力を身につける。	△	◎	○	○
	政治学特殊講義 I (20世紀の世界と政治思想)	POL300AC	2~4	-	-	-	-	-	-
	政治学特殊講義 II (20世紀の世界と政治思想)	POL300AC	2~4	-	-	-	-	-	-
	政治学特殊講義 I (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)	POL300AC	2~4	現代社会において、道徳的なことから個人の内面にかかわるものとして、政治と切り離すべきであるという考えが根強くある。しかし明治憲法体制下の日本では、そのような考えは十分に確立していたとはいえなかった。この講義では、道徳と政治、権威と権力の関係について、近代日本でどのように捉えられていたのか、またどのような可能性があったのかを、主に明治期から大正期にかけての知識人の言説を対象として考察を深める。	・近代日本における道徳思想と政治思想についての知識を獲得し、深めることができる。 ・道徳と政治の関係について、自分なりの視点で考察することができる。 ・近代史に関する史料の探索、読解の方法を身につけることができる。	△	○	○	△
	政治学特殊講義 II (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)	POL300AC	2~4	現代社会において、道徳的なことから個人の内面にかかわるものとして、政治と切り離すべきであるという考えが根強くある。しかし戦前の日本では、そのような考えは十分に確立していたとはいえなかった。この講義では、道徳と政治、権威と権力の関係について、近代日本でどのように捉えられていたのか、またどのような可能性があったのかを、主に昭和戦前期から現代にかけての知識人の言説を対象として考察を深める。	・近代日本における道徳思想と政治思想についての知識を獲得し、深めることができる。 ・道徳と政治の関係について、自分なりの視点で考察することができる。 ・近代史に関する史料の探索、読解の方法を身につけることができる。	△	○	○	△

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	現代政策学特講Ⅰ(立法学)	POL300AC	1~4	本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成(立法)過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される(べき)内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。	法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」がおり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において(法)制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。	△	◎	○	○
	現代政策学特講Ⅱ(立法学)	POL300AC	1~4	本科目は、政治学科科目の中で「選択科目」に属しており、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成(立法)過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘され、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される(べき)内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅱでは、議会(国会)における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。	法制度は天賦のものでも不動不変のものでもなく、それを「書いた人」がおり、また、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において(法)制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。	△	◎	○	○
	現代政策学特講Ⅰ(千代田区)	POL300AC	1~4	本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする2単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク(現地調査)を通じて発見し、考察すること。 なお、沖縄県の2大学(沖縄大学・名桜大学)、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学)の学生も受講可能となっている。	千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性(課題、魅力等)を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力を身につける。	△	○	◎	◎
	現代政策学特講Ⅱ(沖縄)	POL300AC	1~3	本講は、実習を中心とする2単位科目である。本講は、沖縄大学(那覇市)・名桜大学(名護市)および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム(略称「千代田区キャンパスコンソ」)に参加する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学で受講を希望する学生とともに、沖縄でフィールドワーク(現地調査)を行う。調査は、沖縄本島に離島を加えて実施し、それぞれの歴史・文化を理解し、地域社会の政策課題を考察するとともに、本島と離島の文化・産業の違い等を体感して比較の視点をもって研究を進めることを目指す。 本講の受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅰ(千代田区)」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。	現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎的な知識を身につける。 そして現地実習や課題解決型授業によって地域の特性や魅力を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力を身につける。	△	○	◎	◎
	公共政策フィールドワーク	POL300AC	1~4	本授業は「政治学科科目の中で「政策」の分野に属し、実習を中心とする6単位科目である。日本の地域社会における政策課題をフィールドワークを通じて発見し、考察する。人口構造が大きく変化の中で現実を直視しつつ将来を展望する問題意識と洞察力を養うことを目的とする。	フィールドワークに先立つ講義や各種情報収集等により、現代における地域社会の変容と種々の政策領域における主体形成について理解し、問題の所在を認識する。そのうえで、フィールド調査の手法を体得し、調査結果の分析を経て、課題解決の提案としてまとめ上げる。	◎	○	○	○
	外国語演習Ⅰ	POL300AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	外国語演習Ⅱ	POL300AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	外国書講読(英語)Ⅰ	POL300AC	2~4	この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通して、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。	語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。	○	○	◎	◎
	外国書講読(英語)Ⅱ	POL300AC	2~4	この講義では、政治学に関連する英語文献の購読を通して、語学力・語彙力を向上させると同時に、政治学に関する高度な知識の取得を目指す。講義は大学院修士課程と合同で行うため、出席者には大学院進学希望者などを主として想定している。	語彙を増やし、文法的な知識を改善し、併せて政治学上の知見を深める。	○	○	◎	◎

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	外国書講読(独語) I	POL300AC	2~4	政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を講読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。 現時点ではCarl Schmitt: <i>Der Begriff des Politischen</i> (シュミット『政治的なものの概念』)の講読を予定している。同書でシュミットはDie spezifisch politische Unterscheidung, auf welche sich die politischen Handlungen und Motive zurückführen lassen, ist die Unterscheidung von Freund und Feind(政治的な行動や動機の基因と考えられる、特殊政治的な区別とは、友と敵という区別である)とのべ、その有名な友敵理論を展開する。本講読では、二〇世紀はじめに特殊政治的なものの起因を論じたこの政治学の古典をとりあげることによって、あらためて政治とは何か、ということを受講者とともに考察したい。 なお進み具合によっては、 <i>Theorie des Partisanen Zwischenbemerkung zum Begriff des Politischen</i> (『パルチザンの理論』)も講読したいと考えている。	ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようになること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。	◎	○	◎	◎
	外国書講読(独語) II	POL300AC	2~4	政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を講読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。 現時点ではWalter Benjamin: <i>Zur Kritik der Gewalt</i> (1920/1920:ベンヤミン『暴力批判論』)の講読を予定している。この文章をベンヤミンは、Die Aufgabe einer Kritik der Gewalt läßt sich als die Darstellung ihres Verhältnisse zu Recht und Gerechtigkeit unterschreiben (暴力批判論の課題は、暴力と、法および正義との関係をえがくことだ、といってよいだろう)という一文ではじめ、暴力の是非を、ある目的とその目的を達成するための手段と関連づけて考察することからはじめる。ほぼ同じ時期にウエーバーもまた『職業としての政治』のなかでこの論点に言及し、心情倫理と責任倫理について論じる。ベンヤミンは、かれの議論を、神話的暴力と神的暴力の対比へと展開させてゆく。本講読では、二〇世紀はじめに暴力・政治・法を考察したこの文章をとりあげることによって、あらためて政治における暴力について受講者とともに考察したい。	ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようになること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。	◎	○	◎	◎
	外国書講読(独語) I	POL300AC	2~4	倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。	ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。 倫理学(道徳の哲学)についての基本的な理解を手に入れること。	◎	○	◎	◎
	外国書講読(独語) II	POL300AC	2~4	倫理学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。	ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。 倫理学に関わる概念や議論についての基本的な理解を手に入れること。	◎	○	◎	◎
	外国書講読(仏語) I	POL300AC	2~4	文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。	中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあります。 また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。	◎	△	○	○
	外国書講読(仏語) II	POL300AC	2~4	文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。	中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあります。 また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。	◎	△	○	○
	外国書講読(朝鮮語) I	POL300AC	2~4	この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。 この科目を受講するには、「第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。	基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。 語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	◎	△	◎	◎
	外国書講読(朝鮮語) II	POL300AC	2~4	この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。 この科目を受講するには、「第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。	基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。 語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無難歓迎します。	◎	△	◎	◎
	外国書講読(中国語) I	POL300AC	2~4	「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身につけることは本講の主目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。	①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身につけます。 ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。	◎	△	◎	◎

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	外国書講読(中国語) II	POL300AC	2~4	「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的です。中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。	①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。 ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。	◎	△	◎	◎
	現代政治思想 I	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	現代政治思想 II	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	公共哲学 I	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	公共哲学 II	POL200AC	1~4	政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。近年において「公共性」論や、公共性と密接に関連する「市民社会」論に対する注目が集まっている。これらの議論の背景に存在する哲学・思想を探究することは、公共哲学の重要な課題の一つである。公共哲学IIでは、この公共性や市民社会といった用語・概念が、どのような歴史的由来を有しているのかという点について学んでいく。	①公共哲学史を学ぶことを通じて、現在において用いられている公共性や市民社会といった概念が、どのように理解され、どのように議論されてきたかを理解すること。 ②授業で取り上げる各思想家の議論が、公共性論、市民社会論の中でどのように位置づけられるのかを理解すること。	○	◎	○	○
	政治構造論 I	POL200AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	政治構造論 II	POL200AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	政治文化論 I	POL200AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	政治文化論 II	POL200AC	2~4	—	—	—	—	—	—
	公共政策 I	POL200AC	1~4	この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。私たちの日々の暮らしは、公共政策の存在を前提として成り立っていますが、その政策の対象や内容は、時代とともに変化してきました。本講義は、公共政策が求められてきた背景をはじめとして、その構造や理論についての基礎的な理解を得ることを目的としています。	本講義では、学生が、①公共政策の成り立ちと、公共政策に関する基礎理論を理解し、②現代社会における政策課題を把握することを目標とします。	△	○	△	△
	公共政策 II	POL200AC	1~4	この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。この授業は、政治学の視点から実証的な政策分析を行うために必要となるモデルや方法を理解するとともに、現代社会における政策課題に関する価値の対立について学び、それらの解決策について自ら思考する力を身につけることを目的としています。	本講義では、学生が、①現代社会における様々な政策課題について分析を行う際に必要となる理論やモデルについて学ぶとともに、②公共的意志決定に際する政策的争点を理解することを目標とします。	△	○	△	△
	マス・コミュニケーション論 I	POL200AC	1~4	マス・コミュニケーションの特徴・役割などに関する基本的な概念と理論を学び、実際に行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。	1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。 2) 現代社会におけるマスコミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。	◎	○	○	○
	マス・コミュニケーション論 II	POL200AC	1~4	マス・コミュニケーションから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、自分の興味のあるテーマのケース研究を行うことを目的とします。	1) コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。 2) 自分の興味のあるコミュニケーション・メディア現象を紹介するケース研究を行い、3-4ページのレポートを作成する。	◎	○	○	○
	日本政治論 I	POL200AC	1~4	日本政治を形作ってきた政党や政権の歩みを追いつつ、日本政治を理解するための基礎を学ぶ。本年は衆議院選挙ならびに東京都議会選挙という大きな選挙が実施されることから、政治という幅広い概念の中から、有権者として必要な知識を身につける。	自らが有権者として政治のアクターであることを自覚し、国家、地域、社会と自らの関係性を考えられるようになる。国政、地方政治を問わず、自らの知識、経験、考察を通じ、先入観や固定観念を排し、虚偽の情報・伝聞に惑わされず、何が真実であるかを、自らの力で見極められるようになる。	○	○	○	○
	日本政治論 II	POL200AC	1~4	政治とは、私たちはどんな社会を目指すのかという目標をどう定め、どう実現するかを探る営みである。そのことを理解し、私たちが今の日本で政治を実践するために必要な問題意識を身につける。	歴代最長の安倍内閣と野党分裂に象徴される、今の自民党「一強」政権。それが生まれるに至った経緯を1990年代以降に焦点を当てて概観する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今後の日本にとってどんな政治のあり方が望ましいのか考えを深められるようになる。	○	○	○	○
	日米関係論 I	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	日米関係論 II	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	現代政治分析の方法 I	POL200AC	2~4	質的政治分析の主たる理論と方法の基本を学ぶ。	政治を理解し、分析するためのノウハウを身につける。	○	○	○	○
	現代政治分析の方法 II	POL200AC	2~4	本講義では、主に統計的な手法を用いて政治現象を分析するために必要となる基礎的な知識を提供する。社会科学としての政治学(Political Science)という観点から、科学的な議論に必要なデータの証拠の重要性を強調しながら、データを用いて政治的現象を説明する要因を分析するための考え方や分析手法を学ぶ。統計ソフト(主にR)を用いた実践的なスキルの習得を重視し、統計分析の背景をなす数学的な知識に関しては、必要最小限の利用に留める。	明らかにしたい政治現象の原因を探るために必要なデータを自ら調達し(オンライン上で公開されているデータを含む)、回帰分析を中心とする統計的な分析が可能になり、卒業論文の執筆やビジネスに活用可能な手法を身につける。	△	△	△	△
	戦後政治学説史 I	POL100AC	1~4	第二次世界大戦以後、日本の政治学者が何を論じてきたか、特に同時代の政治に対する分析や提言を追跡しながら、理解する。	戦後日本の主要な政治学者の思想と学説を理解し、政治学の使命、役割について考えを深めること。	○	○	△	△
	戦後政治学説史 II	POL100AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	国際政治史	POL200AC	1~4	—	—	—	—	—	—
	福祉政策 I	POL200AC	1~4	政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。	・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。 ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。 ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。 ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。	△	◎	○	○

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門科目 選択科目	福祉政策Ⅱ	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。	・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。 ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。 ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。 ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。	△	◎	○	○	
	環境政策	POL200AC	1～4	現実社会の中で法的・政治的な考え方や評価を求められる分野は多岐にわたりますが、環境の分野においては物理現象を対象にします。これは刑法・民法・商法等とは異なる点です。法令・判例・事例を知るだけでは具体的なイメージが把握できません。どの「政策」でも唯一の正解はありませんが、(1)解決すべき課題を認識し、(2)目標を設定し、(3)それをどのように達成するかを考える過程は共通です。法曹・公務員・企業などいずれの道に進んでもこの過程で改めて勉強が求められます。課題に対して、資源すなわちヒト・モノ・カネを割り当て、効果の予測と評価を行う過程が必要です。環境問題を現象面と数量面で捉え、誰が・何を・どれだけすればよいのかを考えます。環境問題は対象が広いため全部のテーマは取り上げられませんが「環境政策」ではエネルギー・地球温暖化等を取り上げます。また時事問題として感染症やデマの伝播シミュレーション等も取り上げます。学習支援システム「教材」でテキスト「環境政策資料 2021年版」を提供しているため、履修を検討している人は参考にして下さい。	(1)環境問題はなぜ起きるのか、感覚や風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。 (2)政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。また広くは環境問題にかぎらず数字を通じた客観的・論理的な考え方に親しむ。 (3)エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な知識を理解する。 (4)問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得し、環境問題に限らず広くビジネス全般にも応用できる手法を知る。 (5)メディア等で提供される情報を一方的に受け取るだけでなく、多くの情報の中から要点を整理し自分なりの考え方を構築できる考え方を習得する。	△	○	○	○	
	都市の環境問題	POL100AC	1～4	現実社会の中で法的・政治的な考え方や評価を求められる分野は多岐にわたりますが、環境の分野においては物理現象を対象にします。これは刑法・民法・商法等とは異なる点です。法令・判例・事例を知るだけでは具体的なイメージが把握できません。どの「政策」でも唯一の正解はありませんが、(1)解決すべき課題を認識し、(2)目標を設定し、(3)それをどのように達成するかを考える過程は共通です。法曹・公務員・企業などいずれの道に進んでもこの過程で改めて勉強が求められます。課題に対して、資源すなわちヒト・モノ・カネを割り当て、効果の予測と評価を行う過程が必要です。環境問題を現象面と数量面で捉え、誰が・何を・どれだけすればよいのかを考えます。環境問題は対象が広いため全部のテーマは取り上げられませんが、環境政策ではエネルギー・地球温暖化等を取り上げます。また時事問題として感染症やデマの伝播シミュレーション等も取り上げます。学習支援システム「教材」でテキスト「環境政策資料 2021年版」を提供しているため、履修を検討している人は参考にして下さい。「都市の環境問題」では主に交通や都市に起因する環境問題とその検討手法を取り扱います。	(1)環境問題はなぜ起きるのか、感覚や風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。 (2)政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。また広くは環境問題にかぎらず数字を通じた客観的・論理的な考え方に親しむ。 (3)エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な知識を理解する。 (4)問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得する。 (5)メディア等で提供される情報を一方的に受け取るだけでなく、多くの情報の中から要点を整理し自分なりの考え方を構築できる考え方を習得する。	△	○	○	○	
	経済政策Ⅰ	ECN200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考える。政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策(公共政策)」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考えに基づき考察を加える。	この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考えに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。	△	○	△	△	
	経済政策Ⅱ	ECN200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の分野に属する科目であり、現実の経済政策を経済学に基づいて考える。政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LM分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。	この講義では、受講者各人が経済学の考えに基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。	△	○	△	△	
	政治政策論	POL100AC	1～4	—	—	—	—	—	—	—
	公共投資論Ⅰ	POL200AC	1～4	毎年、公共投資に関する事件が発生している。例えば、一昨年発生した台風は放置された森林からの大量の倒木による道路や送電線の寸断、千曲川や阿武隈川の堤防決壊などの大きな被害をもたらした。昨年は東京外環道のトンネル工事ルート上にある住宅街で起きた道路陥没事件、九州豪雨で氾濫した球磨川の治水対策を契機とする川辺川ダム再計画の問題などである。被害の原因又は被害を受けた森林、道路、送電線、堤防は過去の公共投資により整備されたものである。公共投資論Ⅰでは、最初に最近注目を集めている自然災害を解説してから、公共投資で重要な役割を果たした田中角栄と公共投資の歴史を扱う。その後、道路、河川、ダムなどの個別の公共投資の種類や歴史を解説する。授業を通じて、日本の公共投資はどのようにあるべきかを考えてほしい。公共投資論Ⅰと公共投資論Ⅱは相互に関連しているが、どちらか片方のみを受講でも内容を理解できるように授業を進めるので、公共投資論Ⅰのみの受講も歓迎する。	道路、河川・ダム、森林・林業などの公共投資について、その歴史、現在の問題点、今後の公共投資のあり方を考えることができる。特に、一昨年、新しい公共投資の財源として森林環境税・森林環境税と創設された。これは毎年国民1人当たり1,000円を負担して総額620億円に達する。森林環境税・森林環境税と創設された。これは毎年国民1人当たり1,000円を負担して総額620億円に達する。森林環境税・森林環境税と創設された。これは毎年国民1人当たり1,000円を負担して総額620億円に達する。森林環境税・森林環境税と創設された。これは毎年国民1人当たり1,000円を負担して総額620億円に達する。	△	◎	○	○	

分類	授業科目名	ナンバリング	履修年次	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
	公共投資論Ⅱ	POL200AC	1～4	公共投資論Ⅱは、公共投資論Ⅰで講じた内容を確認してから森林・林業、道路、河川・ダムなど個別の事業により発生した事件について裁判例を交えて取り上げる。また、森林・林業では公共投資論Ⅰで取りあげなかったシカの食害と竹の侵入による森林荒廃、自治体版の緑のオーナー制度による森林荒廃などの新しい問題を紹介します。公共投資論Ⅰと公共投資論Ⅱは相互に関連しているが、どちらか一方のみの受講でも内容を理解できるように授業を進めるので、公共投資論Ⅱのみの受講も歓迎する。	道路、河川・ダム、森林・林業などの公共投資について、その歴史、現在の問題点、今後の公共投資のあり方を考えることができる。特に、昨年、新しい公共投資の財源として森林環境税・森林環境税と税が創設された。これは毎年国民1人当たり1,000円を負担して総額620億円に達する。森林環境税・森林環境税と税は目的税であるが、戦後、日本で初めて目的税(ガソリン税)を創設したのは田中角栄である。これらの目的税は受講生の皆さんも負担する税金であり、公共投資の財源となっている。公共投資について自分の考えを持てることを期待する。	△	◎	○	○
	市民公益活動論	POL100AC	1～4	—	—	—	—	—	—
	国際行政論Ⅰ	POL200AC	1～4	—	—	—	—	—	—
	国際行政論Ⅱ	POL200AC	1～4	—	—	—	—	—	—
	財政と金融Ⅰ	POL100AC	1～4	日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。	市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。	○	○	△	△
	財政と金融Ⅱ	POL100AC	1～4	日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。	日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。	△	◎	△	△
	行政管理論	POL100AC	1～4	—	—	—	—	—	—
	協同組合論	POL200AC	1～4	政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバル化が加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」とし、2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えます。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能かー協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。	① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的意義や課題について知ること。 ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。 ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。	△	○	△	△
択(科目)演習(選)	演習	POL300AC	2～4	各担当教員の指導のもと、演習参加者が、政治学に関連する文献の講読および研究テーマを設けて、それについての発表をおこなう。	文献を読む力、文章を書く力、プレゼンテーションをおこなう力を養成する。	◎	◎	◎	◎